

童門

平成三十年

琴古流尺八宗家童門会

目次

ご挨拶	琴古流宗家童門会	会長代行	荒屋 夢童	(一)
尺八と私		三代	納富 寿童	(二)
普化禪師の像(荒木桃代氏より継承)				(四)
琴古流尺八の系譜				(五)
初代寿童 納富安治(寿翁) 師略暦				(六)
二世寿童 納富治彦師略歴				(七)
謹んでご逝去をお悔やみ申し上げます		副会長	荒屋 夢童	(八)
惜別の辞		二葉会会長	安納 都童	(九)
納富先生との出会い・思い出			五月女朝童	(十)
納富寿翁師の訓え				(十)
一、平成二十九年度主要行事実施報告				
①三曲名流演奏会				(十四)
②童門会全国演奏大会				(十五)
③本曲勉強会				(二十)
④なるほど楽典講座				(二十一)
⑤童門忌				(二十二)
⑥普化祭				(二十三)
二、高齢者表彰の受賞				(二十四)
三、各支部便り				(二十五)
(盛岡支部・上越支部・二葉会・川越童門桜寿会・竹俣会・ 東京童門竹豊会・伊豆童門竹豊会・壺竹会)				

ご挨拶

琴古流尺八

宗家童門会 会長代行 荒屋夢童

平成二十九年度の童門会行事は予定どおり終了しました。  
担当役員諸氏には誠に苦勞様でした。

さて、すでに御承知のとおり、三代目納富寿童は、平成三十年一月十四日午前一時すぎにご逝去されました。

このため、今回の「童門」には、昭和五十二年に掲載されました「尺八と私」を再掲することになりましたのでご覧下さい。

平成三十年三月



## 巻頭言

# 尺八と私

——会員皆様のご参考までに

納富 寿童

私は自分の置かれた立場の重責をひしひしと感じています。尺八を家業とする納富家の長男として生まれ、弟治彦とともに自然に父の稽古をうけて、尺八とともに生活して行くことになってしまいました。

学生時代に尺八部を作って活躍し、大学卒業後、アメリカに三か年留学できたのも尺八のお陰です。当時アメリカ留学は困難な時代でしたが、アメリカから帰国していた父の弟子のジョージ蓮池さんのお世話で留学が実現しましたし、大学に通いながら、週末土、日の両日、約四十名の弟子を持って、ロスアンジェルスの上曲界を盛んにすることができ、今日の日米間三曲交流の基礎作りの一端を果すことができました。お陰で学業だけでなく、気持の安らぎと、ゆとりをつくることができ、多くのスターとの交際も生まれ、学業をつつがなく修めることができたのも、みな尺八のためです。

帰国直後、父が弟と私を呼び「治彦が尺八の跡取りになれたよ。お前は歯科医で身が立てられる。兄弟で吹くなよ。兄の芸がこうだ、弟の芸がこうだ、と人にいわれたくないから

な」と父らしい考え方で、その気持がよく判り、一番好きだった尺八も外に出て吹くことは遠慮し、その情熱を歯科医学に投球し、今日の大成に役立ったのです。

また、歯科医学に取り組む考え方も、尺八を通じて得た考え方が生きています。歯科医学はアメリカが世界の指導的立場におかれており、合理的社会の考え方は、人間の知恵によつて、すべてを機械的なもので解決しようとするのですが、私は先覚者の残したものを身につけることが第一と、これらを基礎として、自然科学に取り組み、人間の知恵の微力さを知らず、自然に到達するギアアップを埋めるだけであることも知ることができました。

表向き尺八から離れた私を見て、父はよくよくさびしかったらしく、父の寿会演奏会には、私に無断で、私の好きな曲をプログラムにのせて「おい吹けよ」などとよくいったものです。

父や弟は、三曲界の話をよくしてくれましたし、いろいろと相談にのることもあり、弟のますますの成長を自分の成長でもあるような気がしていました。

弟の突然の死に見舞われ、父の落胆は大きく、この時も私に尺八を継ぐようにとは一言もいっていませんでした。

父の健康状態も勝れず、一門の代表の大神、岡田両氏は、たびたび私の診療所に来て、二代目継承を懇願しましたが、度重なるにつれ、歴史の中に生きている人それぞれが果さねばならない運命のあることも判り、父に二代目を継ごうと話した時の父の喜びは、その後、父が元気になったことでも察せられます。





三代目寿童となり、父と弟の残した寿会の会長となり、糸方の先生をはじめ、周囲の方々の暖かいご援助も、みな父の残した伝統芸術の中での歴史を私に継がせてくれたからです。

三世古童先生門下がつくられていた童窓会の会員・井村卓童先生のお通夜の日、はからずも渡米直前にお会いして、その後一度も顔を合せていなかった荒木桃代さんと隣席しました。桃代さんは尺八は吹きませんが、今日まで荒木派の復興と童窓会を守り、蔭でのご尽力は人一倍であったようです。これも桃代さんが尺八の家で育った因縁でしょう。

私が三代目を継いだことを、この席で初めて聞いた桃代さんは、井村さんの霊が引き合わせてくれたんだと喜んでいました。

故人になられた藤田俊一先生のお宅で桃代さんとともに童門会設立を頼まれ、「治彦君が死んだ時、君に尺八界のため

に戻ってもらいたかったが、君は歯科界であまりに有名で、頼めなかったんだ。よくやってくれた。尺八界のため尽力してくれ」と、私は父と相談し、許可を得て、実行に移したのです。

伝統的歴史から切り離され、われわれ若年者のみでは、何もできなかったでしょう。父をはじめ、童窓会の長老の方々、また二代古童先生から流れをくむ先輩の方々とともに琴古流の歴史的流れや童号の重要性などを自覚して、共に力を結集したので、今日の童門会があるのです。

自分は琴古流の流れの中で、いつの時期に尺八を手にしていったのか、また次の世代に何を残し、継いでもらうのか、考えさせられることばかりです。

今日の琴古流は、年代別に考えると、二代目荒木古童先生が初代としての活躍をされたことになり、三代目古童先生は、二代目の仕事で、父の代は三代目の仕事であり、私は四代目の仕事をするようになります。大体二五年から三〇年の活躍をして、次に伝えることになります。

私は三代目の仕事をした方々とともに四代目の仕事をして、五代目の方々に正しく指導し、引き継いでもらう責任があるわけです。

会員の方々それぞれが、この自覚を持って、正しく琴古流の流れを次に伝えようではありませんか。

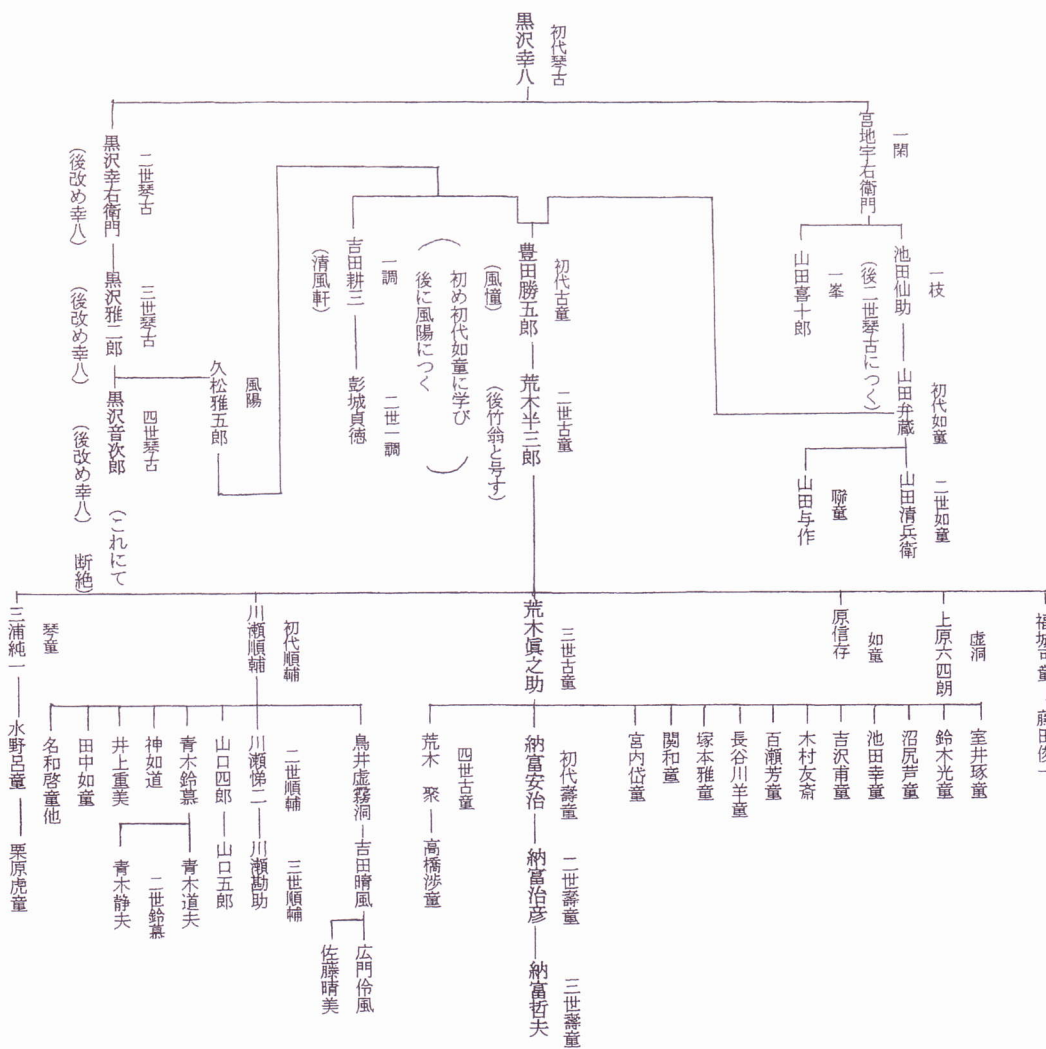


普化 禪 師 像



琴古流の系譜 (昭和五十年九月 藤田俊一作成)

鈴朗







初代寿童 納富安治（寿翁）師略歴

明治二八年 佐賀県三養基郡に生まれる

大正 四年 三世荒木古童内弟子となる。

大正 五年 寿童の印可を受く

大正一〇年 寿会尺八教授所を開設 荒木門下童窓会幹事となる

昭和一〇年 三世死亡により童窓会幹部会会長となり荒木派を統括す

昭和一六年 琴古流楽譜を発行す

昭和二〇年 日本三曲協会理事に就任

昭和三七年 日本三曲協会副会長に就任

昭和四一年 紫綬褒章受章

昭和四二年 重要無形文化財の指定を受く

昭和四四年 宮中桃華堂にて皇后陛下ならびに各官方へ臨席。

重要無形文化財保持者中能島欣一・富山清琴氏と「さらし」「根引の松」を演奏

昭和四五年 勲四等瑞宝章受賞

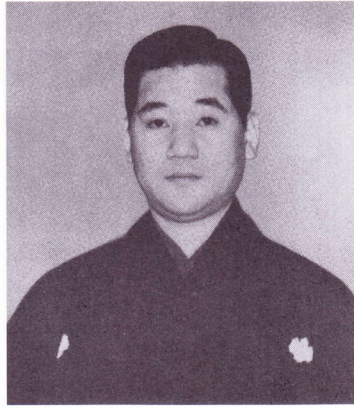
昭和四七年 長男哲夫に寿童を譲り寿翁と号す 日本三曲協会相談役に就任

昭和四九年 琴古流寿会を解散し、荒木派を結集、

童門会設立の礎を築く

昭和五〇年 八十一才の天寿を全うし永眠

昭和五一年 勲三等瑞宝章を贈られる



二世寿童 納富治彦師略歴

昭和六年 寿童の次男として東京に生まる

幼少から父寿童の薫陶のもと、古典尺八樂を中心に  
研鑽、新曲にも精通

昭和三〇年 NHK邦楽技能者育成会第一期卒業

昭和四〇年 米国 ロサンゼルスへ二ヶ月間演奏活動

外務省派遣文化大使として、中能島欣一氏夫婦

と共に、ヨーロッパ各国・米国などにて演奏旅行

昭和四一年 外務省派遣文化大使として、中能島欣一氏夫妻と

共に、ロンドン・ウイーン・ローマ・アテネ

ベオグラードなどで演奏

イギリスのハリエットコーエン国際音楽賞を受賞

昭和四三年 外務省派遣文化大使として、中能島欣一氏夫婦

と共に、メキシコシティのオリンピック音楽祭に

参加、カナダの各市にて演奏

八月 寿童後継者として寿会・九州支部結成演奏会

にて、中能島慶子先生他と演奏

昭和四四年 新曲を作曲するため奈良の深山を訪れる予定の処

七月十一日、享年三十七歳にて早逝す

謹んでご逝去をお悔やみ申し上げます

童門会副会長 荒屋夢童

納富寿童師



三世納富寿童(納富哲夫)先生 帝国ホテル2018年3月4日

尺八童門会の会長でした。

三代目寿童師は、尺八界初めての人間国宝であった、初代納富寿童のご長男です。幼少の頃から厳しい芸能の家庭で育てられました。

大学入学の頃、箏・三絃との合奏を許可され、父の代稽古もされるようになりました。

大学卒業後、渡米、南カリフォルニア大学に三年間留学しました。

大学のあるロサンゼルスは、初代寿童の弟子の一人が、琴古流尺八を普及した所ですので、留学中、毎土、日と、尺八の弟子を教えました。

帰国後の昭和四十四年、弟の納富治彦師(二代寿童)が三十七歳で亡くなりました。そして昭和四十九年、父の納富寿翁から寿童を継承されました。

昭和五十年、寿会を解散して童門会を結成し、現在に至る。

合掌

### 惜別の辞

二葉会会長 安納都童

三代納富寿童先生の訃報に接し、今も夢をみているような心境です。

思い起せば、戦後私は父に尺八の手ほどきを受け、宇都宮大学旧制時代には、顧問の二世荒木古童直門山口宇童先生のご指導をいただきました。

三代目納富寿童師は、平成三十年一月十四日に逝去されました。享年八十八歳。

師は、永年にわたって日本三曲協会の役員を務め、琴古流



昭和二十四年一月、第一回国家公務員試験に漸やく合格。三月に卒業後農林省に入省し、浜松勤務となります。

学生時代には、時々、宇都宮城址で尺八を吹きましたので、浜松城でも吹いて見ようと、日曜日に、お城近くの坂道を登って行くと、道端に「三世荒木古童直門尺八指南小池玲童」と、大きな看板があり、驚いて近くのご自宅にお伺いし、早速入門しました。この日は静岡市から、杉山さん（後の駿童氏）はじめ三名ほどが、稽古に見えていました。

昭和二十八年、東京に転勤を機に、小池先生のご紹介で、幸運にも初代納富寿童先生のご指導がいただけました。厳しい稽古でしたが、納富ご兄弟の代稽古もあって、今でも懐かしく思い出されます。

その後、ご活躍された二代寿童治彦先生が早世され、長兄の哲男先生が三代寿童を継承、琴古流童門会会長としてのご業績が偲ばれます。

今後、三代寿童先生のご指導が受けられないのは、会員にとり大きな悲しみですが、ご教示いただいた数々のご教訓を体し、今こそ力を合わせ、伝統ある童門会の維持発展に努めることが、肝要ではないかと思料されます。

敬愛する三代納富寿童先生。長い間、ご指導をいただきありがとうございました。心よりご冥福をお祈りいたします。

合掌

## 納富先生との出会い・思い出

五月女朝童

私が初め栃木の小野崎先生に尺八を習いはしめてから二年弱がたった頃、叔母の紹介で四谷にあった本部に伺いました。尺八を専門にするなら、納富先生の下についてする様にという事で、先生のご自宅（柿の木坂）の向いのアパートを借りて、生活する事になりました。当時、同じ志を持った人が、私を含め四人いました。結局残ったのが私一人になってしまいました。が・・・

先生のお稽古を思い浮かべると、初めは丁寧に教えていただきますが、二、三回同じ事を間違えたり、出来なかつたりすると、かなり厳しく、又、前回出来なかつた事が、次の稽古で出来ない時などは、大変な思いをしました。私も必死になり、真剣に稽古に向いました。一回の稽古の時間は、長い時間でないものの、緊張の絶えない時間です。白譜の技法もかなり厳しく言われました。

竹掘りも先生が紹介してくれた群馬の人を訪ねたり、自分で開拓して、掘って来たり、掘って来た竹を眺めては「これはいい尺八になるぞ」と言ったり、これは八寸用だ、これは二尺にいいなど言っては、一緒になって喜んでくれました。稽古を離れると、あの頃は若い人がたくさんいたので、夜遅くまで、お酒を飲んだり、話をしたりと、楽しい事もありました。妻との出会いも、先生のちょっとした一言がきっかけで、今に至っています。

何かといろいろお世話に成りました。ありがとうございました。

## 納富寿翁師の訓え

納富寿翁先生は、初代人間国宝として多くの優れた遺産を残されました。

今度、童門会会員に会報「童門」を通してその思い、真意を理解すべく、過去に発行された「童門」（昭和五十一年発行第二号）より抽出して、シリーズとして掲載する事と致しました。

これは、三代寿童師が、初代寿童師から聞き出された談話を、明快な解説の基に、「寿翁芸談」として連載されたものです。

先師の訓えを守り、竹道に励む心の糧としたいと思います。



# 寿翁芸談(一)

初代 納富 寿童 談  
二代 納富 寿童 述・解説

尺八界唯一の人間国宝として、私たち童門会員の心の支えであり、象徴でもあった納富寿翁先生を失ったことは、何としても残念である。

実は、この「童門第2号」で、「名人に聴く」という企画を組み、寿翁先生を中心に座談会を開き、どうしたら竹が上手くなるのか、どうしたら寿翁先生のようなすばらしい音が出せるのか、上達の秘訣があるのか、全会員のために人間国宝のすべてを公開していただこうと考えていたのであるが、先生の健康状態がすぐれぬため、延び延びになっていった次第である。

しかし、「童門」の発刊をいつまでも延ばすわけにはいかないので、御息の寿童会長に質問書をお渡しし、翁の御気

分のよい時を見はからって御答えを頂戴

していただくことで企画を進行中であつた。その途中で御訃報に、私どもは大変な衝撃を受けた。しかし、いたずらに悲嘆に暮れてはいられない。今のうちに、この不世出の名人の芸談を少しでも多く記録に止めておくことこそ、童門人の責務であると思われるからである。

幸にも、寿童会長の手もとには、翁から聞き出された相当量の原稿がまとまっております。また不足分や難解なお話についても、幼時から親しく教えを受けられた現会長なら、明快な解説を加えることもおできになるので、今号から会長に補足、解説をお願いし寿翁芸談として連載させていただきます。

今までも、尺八界・三曲会各流の方々

はもちろん、マスコミ各社からも再三、再四要望のあったものであるが、まだ一度も公開されたことのない貴重な芸談である。御味読をお願いしたい。

## 一、練習について

〈問1〉

一にも練習、二にも練習と申しますが、それだけで上手になれるものでしょうか。

〈答〉

その通り。尺八の吹奏は第一に訓練によって完成されるもので、才能は第二の要素です。

〈問2〉

いったい一日に何時間ぐらい吹けばよいものでしょうか。

〈答〉

時間が長ければよいというものではなく、短時間でも疲れ果てるような訓練、精神のこもった稽古を毎日欠かさず行うことが必要です。





在りし日の寿翁師

〈問3〉  
練習はどんな楽器にも重要と思いますが、特に尺八の場合いかがでしょうか。

〈答〉  
尺八は普化禅の精神鍛練の法器から生まれたものであることを忘れてはなりません。

初めから楽器として作られたものではないのですから、技によって楽器の不

足分を補わねばなりません。そのため  
の技は、指の運び方でも、メリカリの  
工合でも、息の強弱でも、正しく、無  
意識に、反射的に行えるようになるま  
で反復練習せねば身につきません。

〈問4〉  
尺八は若いころから始めないと上手になれないものでしょうか。

〈答〉  
若いほど結構、成長期に始めるにこし

たことはないが、尺八は息を大量に使いますから、体の固まらない小・中学生のうちから始める必要はないと思います。何の芸でも同じでしょうが、中年から始めても上手になれないということはありません。ただ若い者に比べて上達のスピ

ードは遅いわけですから、何倍もの努力をする覚悟が必要です。

〈問5〉  
特別な音の練習法はあるでしょうか。

〈答〉  
若いうち、初心のうちは、精一杯息を使っただけでかい音を出すことと。

ある程度上達したら、音をまとめて美しい音に仕上げて行くのです。

〈問6〉  
指が速く動くようにするにはどうしたらよいでしょうか。

〈答〉  
訓練しかないでしょう。速い曲を反覆して吹くこと、特に若いうちは忙しい曲をどんどん練習することです。

## 二、尺八と人間

〈問1〉  
尺八は精神修養と関係があるとお考えでしょうか。

〈答〉

芸に対する修業を、人間自身の修養にも向けて行かねばならないと考えます。

「寿童註」

次号でくわしく出てくるはずであるが、

父寿翁は、尺八楽における「調和」ということを非常に重要視した。すなわち、技・音・気合の調和がとれてはじめていい演奏ができるということ、

そのためには、技の訓練を通じて精神の訓練をしなければならぬとした。

邪心を起こさず、無意識の無心の状態で自分をコントロールできるようにならなければいけないと言っているのである。

〈問2〉

舞台であがらないためにはどうすればいいでしょうか。

〈答〉

邪心を起こさぬことです。

「寿童註」

舞台上上がり、よく聴かせようと野心をもつと心を乱し、鼓動は乱れ、体調も

十分でなく、個性のある音は生かされず、また気合も合わず惨憺たるものになる、とは父から常々教えられたところである。

〈問3〉

尺八は健康によいとお考えですか。

〈答〉

はい。

「寿童註」

書道なども同じであるが、尺八を吹くと血圧が下がるということを実験した。

(父も私も実際に測ってみた) また、腹が減ることは誰しも経験済みである。さらに反射神経を使うから、副交感神経を刺激し、それによって無意識

に動いている臓器に対し大変よい影響を与えることになる。ただ年少者は、

肺が一人前になるまでは吹かせない方がよいであろう。

〈問4〉

技術の向上に精神力や体力が大きな要素となるでしょうか。

〈答〉

もちろんです。演奏にもっとも大切な体調を整えるためには、精神力と体力が必要です。

〈問5〉

何歳くらいがもっとも円熟する年齢とお考えですか。

〈答〉

人によって全然違います。その時その時によって個性と技の調和の仕方が変わってくるものです。一般に若い時はどうしても聴かせたがりですが、年をとるにつれて芸が熟し、かれてくるものです。

〈問6〉

どういう人を名人というのでしょうか。

〈答〉

自分の個性を十分に活かして、それに対して技をどのように調和させるか、その才能(センス)の優れた人を名人と言ってよいでしょう。

(以下次号・文責・原田穂童)

平成二十九年年度 「三曲名流演奏会」

日時 平成二十九年四月十五日（土）

十時四十五分開演

会場 国立劇場 大劇場

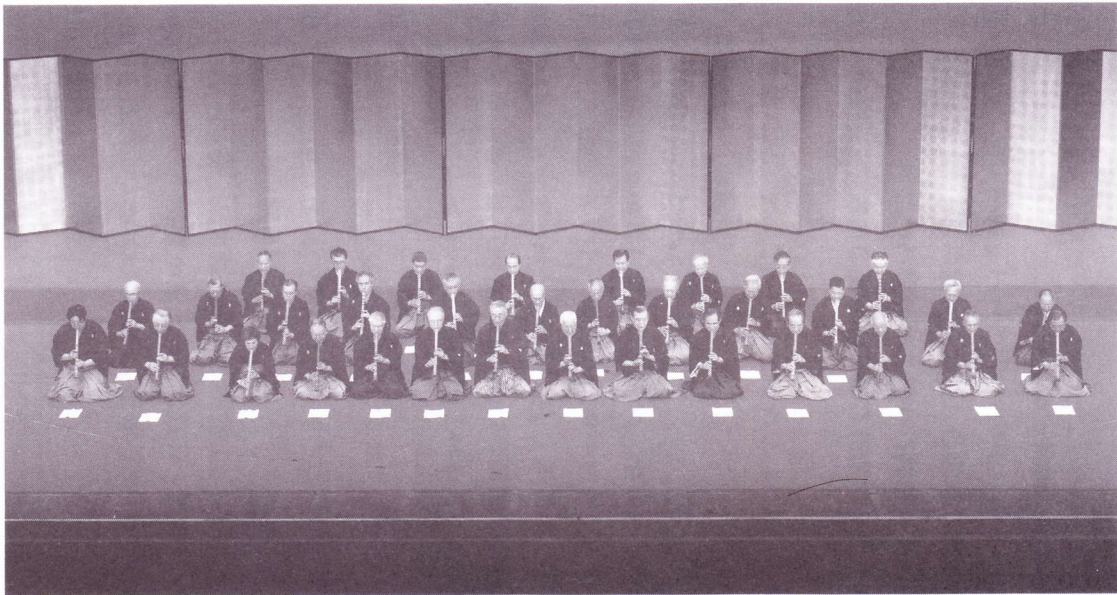
主催 公益社団法人 日本三曲協会

曲目及び出演者

琴古流本曲 虚空鈴慕

尺八 納富寿童

伊藤遊童	宗形幸童	川津征童	佐々木明童	岩崎主童	小森周童	星野忠童	真篠無童	安納都童	宮沢悟童	荒屋夢童	尺八
栗原有童	高田輝童	鈴木隆童	村瀬剛童	朝倉葵童	飯島洋童	根本浩童	小野田乱童	古越笙童	高橋澄童	中尾志童	納富寿童
	清水瑚童	松本柯童	夏川吹童	五月女調童	木内幸童	山本英童	土屋羊童	荒海應童	鈴木賞童	亀井鳳童	
	坂口隆廣	柘植龜寿	小野寺栄寿	安野白寿	山下英寿	宮友童	正木杜童	千葉銀童	井川元童	中村啓童	



於・国立劇場 大劇場

平成29年度 三曲名流演奏会

平成29年4月15日



## 曲の解説

古伝三曲の一つと言われている「虚空鈴慕」は、普化禅師の言った虚空来連架打を現しており「虚にして霊、空にして妙」と言う禅の神髄を表した曲と言われる。約七百年前、中国から普化尺八を伝えた、法燈国師の弟子の虚竹禅師が、伊勢朝熊山（アサマヤマ）の虚空蔵堂で参籠中に霊夢の中で聴いた妙音を、竹に移したと伝えられている。師の法燈国師による命名と伝えられる。

## 後記

この演奏会は平成二十六年にスタートし四回目となります。午後一時集合とした為、時間的に余裕があり、リハールもできた事から、大きな安心感をもって本番に臨んだ結果、演奏は満足の出来栄でありました。

童門会は荒屋副会長指導のもと、定期的に「本曲勉強会」を実施していることが、成果に結びついているものと確信しました。

その他、萩岡会「江の島」に六名参加、鈴木白韻会「玉の臺」に一名参加と、名流演奏会の中で、童門会会員の活躍がありましたので、併せてご報告致します。

星野 忠童 記

## 童門会全国演奏大会

平成二十九年度も東京証券会館ホールに於いて、糸方四社中のご協力の下、全国大会が開催されました。

### 糸方

萩岡社中 萩岡松韻先生 他九名  
大里社中 大里華勢井先生 他八名  
佐藤社中 佐藤紀久子先生 他二名  
設楽社中 設楽千聡代先生 他三名

大会は「一二三鉢返調」で開演、最終の「虚空鈴慕」まで二十四曲演奏滞りなく終了する。

好天にも恵まれたこともあり、大勢の来場者の入場がありました。

遠隔地より参加者も多く、日頃の猛練習の成果をいかに発揮された立派な演奏でした。納富会長の奥様も最後の曲まで熱心に見守っておられました。

ご出演の糸方先生方、社中の皆様方のご協力が難うございました。

又、童門会の皆様、そして会の運営を担当した役員の皆様本当に有難うございました。

小森 周童 記

# 童門会全国演奏大会

と き 平成二十九年十一月十八日(土) 午前十時四十五分 開演  
 と ころ 東京証券会館ホール(地下鉄茅場町駅下車)

御招待

主催 琴古流宗家童門会  
 司会 納 富 壽 童

## 演 奏 曲 目

一 尺八 一二三鉢返調

荒屋 五月女 朝夢  
 志本 岡田 東  
 佐々木 中尾 明  
 中尾 真篠 志  
 五月女 真篠 調  
 童童童童童童童童

高瀬橋 高剛 澄  
 村井 剛 澄  
 亀井 剛 澄  
 鈴木 賞 鳳  
 高田 輝 隆  
 宮田 友 鐘  
 加藤 藤 喜  
 五月女 喜美子 壽童童童童童童童

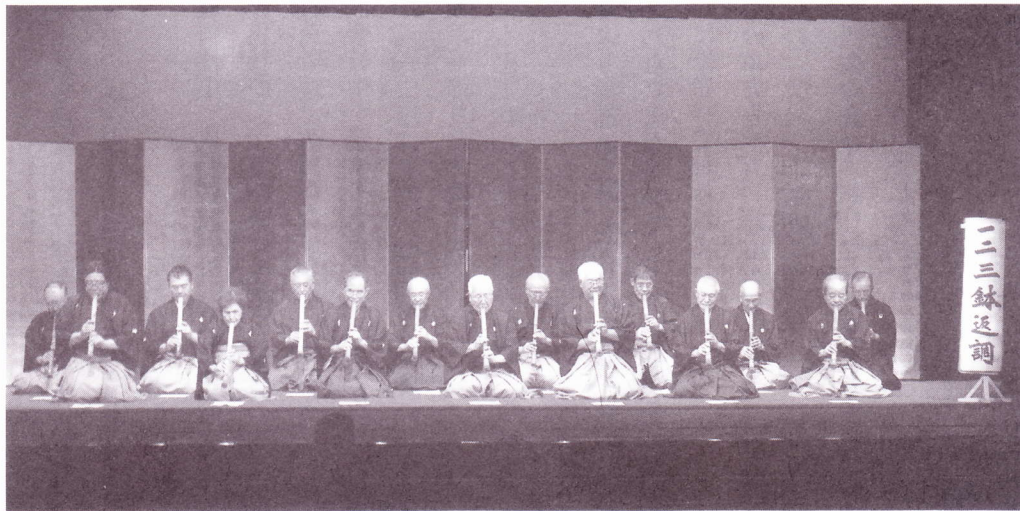
二 尺八 嵯峨の秋

宗形 志田 幸童  
 佐々木 明童  
 鈴木 隆童  
 高田 元童  
 井川 哲夫  
 石田 隆夫  
 力竹 童童童童童童童童

箏替手  
 箏本手

大熊 育子  
 佐藤 紀久子  
 五十嵐 栄柯

### 「一二三鉢返調」



童門会全国演奏大会 平成29年11月18日 於 東京証券会館ホール

三 ほととぎす

尺八

伊藤 遊童  
栗原 有童  
小野寺 榮壽  
柘植 隆廣  
坂口 龜壽

箏  
三絃

設楽 千聡代  
藤平 彩加  
樋口 千清代

四 松風

尺八

五月女 朝童  
五月女 調童  
加藤 鐘壽  
五月女 喜美子

箏  
三絃

大里 華勢井  
板倉 征吉井  
細谷 華詠井  
中島 由井

五 七福神

尺八 浄瑠璃

亀井 鳳童  
宗形 幸童  
高田 輝童  
佐々木 明童  
高橋 澄童

箏 浄瑠璃  
三弦 箏  
三弦 箏

萩村 松韻  
永村 萩千弦  
老沼 萩実咲  
萩岡 未貴  
高丸 萩賀子  
萩岡 由子

六 千鳥の曲

尺八

古越 笙童  
土屋 羊童  
山本 英童  
山下 幸童  
山内 英童  
木下 幸童  
山本 幸童

箏 替手  
箏 本手

佐藤 紀久子  
大熊 育子

七 近江八景

尺八

鈴木 賞童

箏  
三絃

樋口 千聡代  
藤平 彩加  
設楽 千清代

八 江の島

尺八

正木 杜童

箏  
三絃

大里 華勢井  
内田 華緒井  
大田 華基井  
三船 敦井

九 雪の松島

尺八

宮友 童

箏 一  
箏 二

十七絃

渡辺 岡華  
竹山 萩惠美  
小川 萩美貴  
萩川 萩陽  
瓦田 松周

十 竹生島

尺八

高橋 澄童  
村瀬 剛童

箏  
三絃

佐藤 紀久子  
大熊 育子

十一 須磨の嵐

尺八

五月女 調童

箏  
三絃

大里 華勢井  
三船 敦基井  
河合 保基井  
太田 隆井



十二  
尺八

竹生島

中尾志童

箏

三絃

渡萩永萩  
辺岡村岡  
岡由萩松  
華子千弦韻

十三  
尺八

根岸の四季

飯島洋童

箏

三絃

樋吉設  
口野楽  
千千千  
清紫聰  
代代代

十四  
尺八

千鳥の曲

宗永山小永宗  
形島崎景幸  
童童童童童童

箏替手  
箏本手

板内太三  
倉田田船  
征華隆敦  
吉緒井井

力石井堀山小永宗  
竹田川川岸島崎島形  
哲元鶴圓煌景幸  
夫隆童武童童童童童

十五  
尺八

小督の曲

真篠無童

箏

三絃

萩瓦渡萩  
岡田辺岡  
未松岡松  
貴周華韻

十六  
尺八

桜川

川津征童

箏

三絃

大佐五十  
熊藤嵐  
育紀栄  
子久子柯

十七  
尺八

松づくし

岡本樹童

箏

三絃

大河中  
里合島  
華保由  
勢基井

十八  
尺八

松風

岩崎圭童

箏

三絃

設吉樋  
楽野口  
千千千  
聡紫清  
代代代

十九  
尺八

須磨の嵐

荒屋夢童

箏

三絃

萩竹高萩  
岡山丸岡  
未萩萩松  
貴恵賀嬌韻

二十  
尺八

四季の眺

永山小永永  
景島崎景  
童童童童童童

箏

三絃

大佐五十  
熊藤嵐  
育紀栄  
子久子柯

二十四 尺八 虚空鈴慕	二十三 尺八 四季の調 星野忠童 低音箏 高音箏	二十二 尺八 桜狩 加藤邦童 箏 三絃	二十一 尺八 四季の段 小森周童 箏 三絃
加山木山土飯古川小 藤下内本屋島越津森 邦英幸英羊洋笙征周 童寿童童童童童童童	坂柘小正栗岩伊星 野植寺木原崎藤野 隆亀栄杜有圭遊忠 廣寿寿童童童童童童	萩小老萩 岡川沼岡 未萩萩松 貴美実実松 陽陽咲韻	樋吉設 口野楽 千千千 清紫聡 代代代

「虚空鈴慕」



童門会全国演奏大会 平成29年11月18日 於 東京証券会館ホール

## 本曲勉強会実施報告

幹事 佐々木 明童 高田 輝童

二十九年本曲勉強会は、童門会の主要行事の一つとして、例年同様童門会本部において実施し、講師は、荒屋夢童副会長、補佐は、小森周童、岩崎圭童の両常任理事の指導のもと、六回実施し、受講者は延べ四十七名が参加し、大きな成果を収めたものと思われます。

以下、実施概要を次の通り報告します。

実施時期 曲目 参加者

第一回 二月四日(土)

虚空鈴慕 八名

第二回 三月十八日(土)

虚空鈴慕 六名

第三回 六月三日(土)

葦草鈴慕 七名

第四回 九月九日(土)

吟龍虚空 九名

第五回 十月二十八日(土)

一三三鉢返調

虚空鈴慕 七名

第六回 十二月九日(土)

一三三鉢返調

伊豆鈴慕 十名

### 所見概要

前年度同様、講師、又、補佐の懇切な指導と参加者の努力が相俟って、大きな成果をおさめることが出来たと思われる。

本曲は、今後共機会を捉え、継続練習が大切であることを受講者一同、自覚した次第です。

以上





## 平成二十九年年度なるほど楽典講座 実施報告

講師 岡本樹童常任理事  
幹事 五月女調童 栗原有童 鈴木賞童  
場所 成美教育文化会館（東久留米）

### 第一回 三月十二日（日）

課題曲 「黒田節」「みだれ髪」

参加人数 七名

内容 民謡と歌謡曲の二曲を練習しました。

「みだれ髪」は、今年二月に亡くなられた作曲家の船村徹さんを偲んで取り上げたものです。この他、五線譜の長音階・短音階と尺八譜の関係について学習し、有意義な講習となりました。

### 第二回 七月十六日（日）

課題曲 「ベッサメ・ムーチョ」

「ハーレム・ノクターン」

参加人数 九名

内容 ラテンとジャズの二曲を練習しました。

「ベッサメ・ムーチョ」は尺八での演奏のほか、スペイン語の原歌詞について解説がありました。「ハーレム・ノクターン」は半音階の臨時記号が多く出てきて、受講生にとっては難しい曲でしたが、とても良い経験になりました。

### 第三回 十一月二十六日（日）

課題曲 「赤とんぼ」「夕焼け小焼け」

参加人数 九名

内容 日本の童謡を二曲練習しました。

最後に「平調子（レ調、り調、ロ調）」「雲井調子」「本雲井調子」「半雲井調子」「古今調子」等の箏の調子を五線譜と尺八の譜に直して勉強し、お開きとなりました。

「赤とんぼ」は原曲が変イ長調（ $b$ が4個）のところ、音程を長二度上げた変ロ長調（ $b$ が2個）と長三度上げたハ長調に移調し、それぞれの調で尺八にて演奏しました。「夕焼け小焼け」は変ニ長調（ $b$ が5個）の原曲に対して、長二度、長三度上げた変ホ長調（ $b$ が3個）、ヘ長調（ $b$ が1個）に移調、演奏しました。自分で楽譜を書くことで移調の原理を理解することができ、有意義な講習となりました。

平成三十年は四月十五日、八月五日、十二月九日（いずれも日曜日）の三回を予定しています。楽典を理解せずに曲を演奏するのは、交通法規を知らずに自動車を運転するようなものです。皆様、奮ってご参加ください。

鈴木 賞童 記

## 童門忌

日時 平成二十九年三月四日(土)

場所 曹洞宗 四谷笹寺(四谷山長善寺)

今年の童門忌は、第三五三回常任理事会終了後、午前十一時より同寺本堂にて、常任理事・理事・功績会員のご家族等十九名が参列、例年通り導師の読経と共に、初代黒沢琴古、そしてそれに続く初代納富寿童という順に、功績会員三十一名のお名前が読み上げられました。

参列者一同による琴古流本曲「虚空鈴慕」を献笛、次いで焼香が行われ、先人のご遺徳・ご功績を偲んでご冥福をお祈りいたしました。本堂での法要終了後は、境内の一角にある「童門碑」の前で改めて「虚空鈴慕」を献笛いたしました。

その後別室で、お清め(直会)が行われ、先師・物故者・功績者を偲びました。

荒屋副会長によるご挨拶と献杯に始まり、思いで話しの一時を過ごしました。

尚、平成二十八年度中の童門会会員の新たなる物故者はおりませんでした。

岩崎 圭童 記

童門忌「虚空鈴慕」献笛



平成29年3月4日(土) 笹寺

童門忌顕彰碑「虚空鈴慕」献笛



平成29年3月4日(土) 笹寺

## 普化祭 法要概要

童門会恒例の普化祭法要を二十九年度も次のとおり執り行はれました。その概要を報告いたします。

- 一、時 期 平成二十九年十月七日
- 二、場 所 童門会本部
- 三、参加者 常任理事 十三名
- 四、幹事 古越笙童 五月女調童
- 五、法要概要

本部に祭壇を設け、普化禅師の御影をはじめ、琴古流荒木派の大先人荒木竹翁師、三世古童師、童門会創設者の初代納富寿童師の胸像を安置して、生花を手向け、お供へ物を供え、岡本樹童師にお経を上げていただき、参加者一同ご遺徳を偲び、同会のご加護を祈願しました。





## 高齢者表彰の受賞

平成二十九年度において、日本三曲協会から高齢者表彰を受賞された方は次の方でした。  
おめでとございました。

村瀬 剛 童 昭和十六年十一月二十五日生



村瀬 剛 童

## 芸 歴

- 一、平成十年三月十三日 高橋 聖童師に入門、師事を受ける
- 二、平成十三年五月一日 高橋 聖童取立て、師範 剛童を印可

以上

## 各支部（公） 便り

### 盛岡支部

支部長 水原 月童

盛岡支部は、現在、鈴木星童（奥州市）・吉田斗童（宮古市）・藤田昂童と安達嘉男が盛岡市と、住所が離れている為、平常一緒に稽古することが困難な状態ですが、春の盛岡市芸術祭には、初代上原真佐喜作曲の「里の四季」を（山田流 船越喜実之社中）と、また、秋の岩手芸術祭には、菊岡検校作曲の「笹の露」を（生田流 細田雅邦社中）で出演しました。

日頃連管の稽古ができないので、何よりも全員の尺八の律を整えることと、合わせて、メリ音（特にツのメリ・ウ）のピッチと音色に注意を集中することを強調しました。

息次や、荒木派独特の手法は最近皆マスターしてきたと思われるので、成果が期待されました。

指導の立場の私が、三年前の負傷後尺八が吹けない状態で回復できないので、唱譜を中心に、録音テープ・CDと、ハーモニカを補助に、可成り成果を挙げたと思っております。

律もよく揃うようになり、特に「笹の露」では、速いテンポや、転調部分も比較的スムーズに演奏できるようになったと思っております。これを基にして、まだまだ手掛けたい曲も多いので、更なる向上を目指して努力を重ねてゆく所存です。

以上

## 上越支部

支部長 永島 景童

平成三十年 新春を迎えまして、童門会員の皆様様の御多幸と御健勝を心より祈念申し上げます、本年も宜しくご厚誼の程お頼み申し上げます。昨年は当支部に於きましては何かと多忙な年で有りました。その中で山崎煌童幹事長が率先して月例会開催に努力下さいました。月例会は開催前月に日取、会場、課題曲を決め、その日の月例会を解散します。課題曲は原則一人吹きで稽古するをモットーに続けて参り、会員の技量も向上され「月例会が楽しみだ」との声も出、当方もやりがいを感じます。稽古の音源はNHKの録音テープやCDをプレイヤーに掛け行っています。一月は吹き初めて「千鳥の曲」で祝い、次曲より各自の課題曲で幕を開けました。二月三月は上越三曲協会の友志で箏曲スプリングコンサートを主催、全十一曲、絃方は生田流箏竹会様が一社、尺八は琴古流三派十一名、都山流三派四名、当支部は二曲を受け持ち、一曲目は「若菜」絃方箏竹会社中箏三面、三絃五竿、尺八は小島圓童、山岸鶴童、堀川武氏の三名、二曲目は「春の曲」絃方は同じく箏竹会箏替手二面、箏本手四面、尺八は一曲目と同メンバーでした。新春に相応しい明るい雰囲気、良い選曲ではなかったのではありません。三ヶ月迄は定例月例会をこなし、スプリングコンサートの音合せ、六月に予定している長岡市での温修会の曲の練習に費す。六月十九日(第三月曜)午後一時三十分長岡市在住の生田流宮城派総和会、会主池田総子様宅に集合、当支部メンバーとの温修会を開催、先ずは「千鳥の曲」で露通し、次曲より一人吹きで一曲を二

度づつ三曲、絃方池田先生お一人なので、箏と三絃を曲に応じて弾き分けて、時々休憩を入れて演奏、曲によっては合わない処は何度か繰返し指導を頂き、大変勉強に成った温修会でした。曲名は「春の曲、秋の曲、楫枕」の計四曲でした。

九月十日(第二土曜)午前十時三十分～十六時迄

第五十五回上越三曲協会主催定期演奏会

全十六曲、絃方、生田流六社八十四名、山田流一社二十三名、尺八、琴古流三会派十四名、都山流三会派二十三名、総計百二十五名の出演者、当支部は、三曲に出演、一曲目は琴古流尺八で、派を超えて合同曲で、兼安洞童作曲「鈴鹿」、二尺と尺八寸管の二重奏で、二曲目は「秋の曲」、絃方山田流茜会、箏本手十面、箏替手三面、尺八、小島圓童、山岸鶴童、堀川武、三曲目「四季の眺」、絃方、生田流琴玲会、箏三面、三絃四竿、尺八、永島景童、山崎煌童、堀川武。

十月九日(第二月曜・体育の日)生田流、宮城社琴玲会、前会主飯田美江先生を偲んで、と題して箏曲演奏会が開催、その会に主催者より賛助出演の要請が有りまして、当会員と検討しまして、初代支部長の西野庸童先生以来五十五年以上ものご厚情を戴いており、これからも斯道を基に継続させて頂く為に出演を決めさせて頂きました。出演曲は主催者様より「楫枕」と、追善曲として「残月」を希望され、楫枕は、絃方は自前で箏三面、三絃三竿、尺八、「楫枕」小島圓童、山岸鶴童、堀川武、「残月」は永島景童、山崎煌童、とで謹んで献笛をさせて戴きました。飯田先生の御親戚並びに、御子息夫妻より丁寧な労いの詞を頂きました。



十月二十一日（第四土曜）主催、花柳寿美鞠様

花柳流鞠の会、舞踏会第五回、午後十二時～十六時

会主様より特別ゲストとして、箏曲二曲を演奏して頂きました。絃方は当方での事なので、琴玲会様にご協力して頂きました。出演は中入後で、二曲連続で行い、絃方は「楫枕」は、箏二面、三絃二竿、尺八、山崎煌童、小島圓童、「千鳥の曲」絃方、箏本手二面、箏替手二面、尺八、永島景童、山岸鶴童、堀川武氏、三名、頼んだ方も、頼まれた方も初めての経験でしたが、私共は、大変緊張して演奏させて頂きました。後日、箏曲の演奏会を初めて聴かれた方より、お琴、三絃、それに尺八の音の和音が和楽器独特の音色で聴き、心地も良く、大変素晴らしい気持ちになった。又、機会が有ったら聴かせて頂きたいとのことでした。プロの企画も箏曲が入り、観衆の皆様には喜ばれた様です。

十一月十二日（第二日曜）新潟県邦楽連盟主催

第四十四回記念プログラム合同曲、「秋景二章」が折り込まれていまして、新潟市の山田流の先生が作曲した新曲を、昨年演奏会で発表、それまでに、三ヶ月合同練習の最終回が長岡で行われ、十一月十二日、本番の演奏会で「秋景二章」は、一曲で出演者数は、箏第一、十九人、箏第二、十九人、十七絃五人、尺八二十四人、計六十七人、箏第一・第二、十七絃、尺八の四重奏、舞台は立錐の余地もなく、七十名に近い演奏者の奏でる曲は、大迫力でした。

十一月十八日（第三土曜）童門会全国演奏会

当支部は、プログラム十四、他支部と合同曲「千鳥の曲」と、二十番、「四季の眺」、三絃、佐藤紀久子先生、大熊育子先生、

箏、五十嵐栄柯先生、尺八、永島景童、山崎煌童、小島圓童、山岸鶴童、堀川武氏の五名、本年もお陰で無事終演させて頂きました。毎年絃方の先生宅に音合わせに向いて頂き、本部長理事の先生に厚く御礼を申し上げまして、本年の支部便りと致します。

## 二葉会（宇都宮）

高田 輝童

二葉会の会長安納都童師が永年務められた栃木県三曲協会の副会長を昨年六月辞任されました。在任中は、総務関係では、国民文化祭や、規約改正委員会の事務を担当され、また、会計では会計帳簿類のパソコン化を図るなど、県三曲協会の発展に貢献されました。

また師は、地元世話役として『景観づくり』を提唱して、幹線道路の拡張工事に「自動車事故」にもめげず協力し、その工事が昨年竣工しましたが、年末には地元が『宇都宮市景観賞』を受賞しました。

さて二葉会の昨年の主な活動は、県芸術祭など都合により出演できませんでしたが、地元小学校での邦楽勉強会の開催、生涯学習センターの行事に参加、また会員の勉強会として、毎月、西生涯学習センターで、尺八及びみさと笛の研修を実施したことがあげられます。

今年の活動としては、昨年同様に童門会を基軸として、地域活動に注力し、地元の県三曲協会の仲間と連携して絆を深めながら活動を続けて行く所存です。

以上



# 川越童門桜寿会

荒屋 夢童

平成二十九年の川越童門桜寿会の活動は、次のとおりです。

一、「第六十九回邦楽のつどい」に参加

日時 九月十七日（日）

場所 川越西文化会館（メルト）

曲目 琴古流本曲 三谷菅垣 雲井獅子

出演 荒屋夢童（川越） 次の七名は上尾支部

小野田乱童・石野乱声・清水瑚童・中村啓童

瀬田寿風・小沢華風・福田竹清

二、「川越三曲会」に参加

日時 十月八日（日）

場所 川越南文化会館（ジョイフル）

曲目（一）八千代獅子

出演 荒屋夢童・高田輝童・中尾志童・宮友童

糸方 井上富士喜

曲目（二）琴古流本曲 一二三鉢返之調

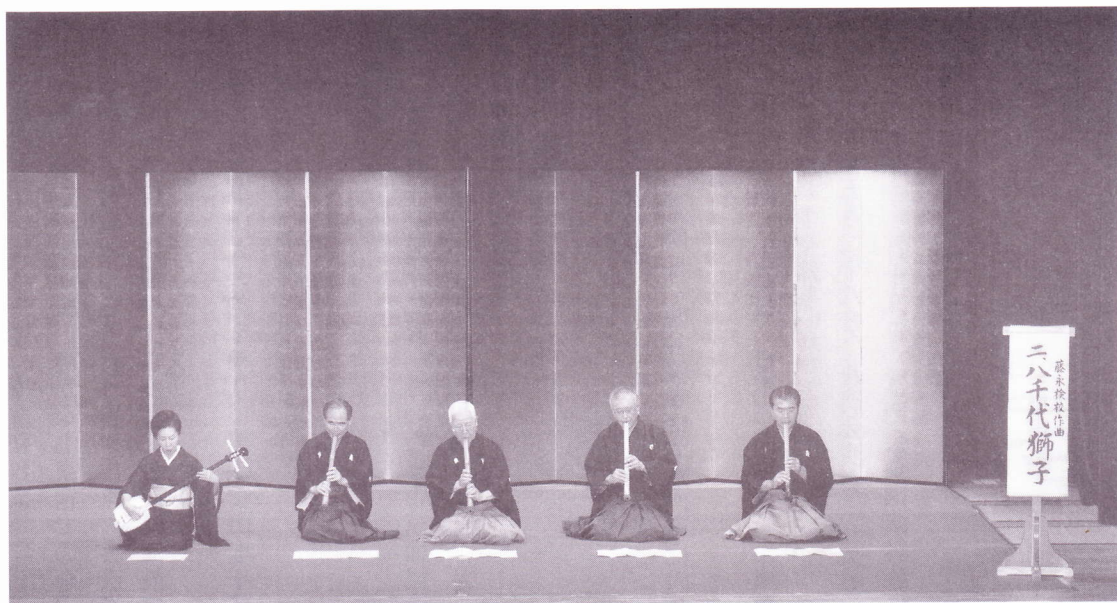
出演 荒屋夢童・中尾志童・鈴木賞童・宮友童

高田輝童（以上は前列）

（以下は後列）

小野田乱童・石野乱声・清水瑚童・中村啓童

瀬田寿風・小沢華風・福田竹清



第35回邦楽（箏・三絃・尺八）のつどい 川越市三曲会 平成29年10月8日（日） 川越南文化会館

二十九年年度活動報告 竹伶会 星野 忠童 記

竹伶会の活動は会員相互の親睦を図りつつ

\*本部行事への積極的参加

\*尺八吹奏技術向上の為の定期的教室の開催、更には合宿を含む勉強会開催

\*地元三曲協会への参加 等をテーマとして活動しています。

一 竹伶会の行事

(一) 二十九年二月二十五日

\*小平霊園 納富家墓前にて「三谷菅垣」を献笛。  
墓参後

\*美蘭地域センターにて本曲勉強会開催。

演奏曲十七曲(竹伶会員八名参加)、童門会で本曲一人吹きのない現状では貴重な勉強会であると思います。

(二) 二十九年六月十一日 生田流合奏勉強会を実施  
七名参加

箏 筑紫流 富田先生社中

「八千代獅子」・「長良の春」・「大内山」

筑紫流「五木の子守歌」

宮城曲「春の海」の五曲より選択して演奏しました。

(三) 二十九年十月八日～九日 合宿 月夜野温泉みねの湯  
「つきよの館」九名参加

「長良の春」・「郭公」・「松風」・「江の島」・「虚空鈴慕」・

その他「真田太平記」・「本手調子」

二 地域活動への参加

(一) 二十九年十一月十二日 さいたま市三曲協会演奏会

に八名参加 さいたま市民会館大宮

\*「虚空鈴慕」・「長良の春」  
生田流 福寿会逸見先生社中

三 童門会行事への参加

(一) 二十九年三月四日 四谷笹寺にて童門忌に四名参加

「虚空鈴慕」

(二) 二十九年四月十五日 日本三曲協会名流演奏会に九

名参加「虚空鈴慕」

(三) 二十九年五月二十八日 萩岡会演奏会に五名参加

(四) 二十九年十一月十八日 童門会全国演奏会に八名参

加

以上

## 東京童門竹豊会

かねて病氣療養中であり、我々の長年の良き仲間であった林伸童氏が、平成二十九年三月、薬石効なく逝去されました。  
(享年八十一歳)

合掌

現在、東京童門竹豊会会員は四名となりましたが、童門会の行事に積極的に参加するとともに、全員が大田区三曲協会の会員になり、代表者は役員に就任し、運営に参画し、次のとおり年二回の演奏会に出演いたしました。

### ①大田三曲祭

日時 七月三十日(日)

場所 大田区民プラザ大ホール

曲目 笹の露

糸方 創明会 小野正志先生社中

### ②大田区文化祭

日時 十一月十九日(日)

場所 大田区民センター音楽ホール

曲目 琴古流本曲 吟龍虚空

夕 顔

糸方 岩間芳子先生社中

### ○山田流合奏勉強会

幹事 小森 周童

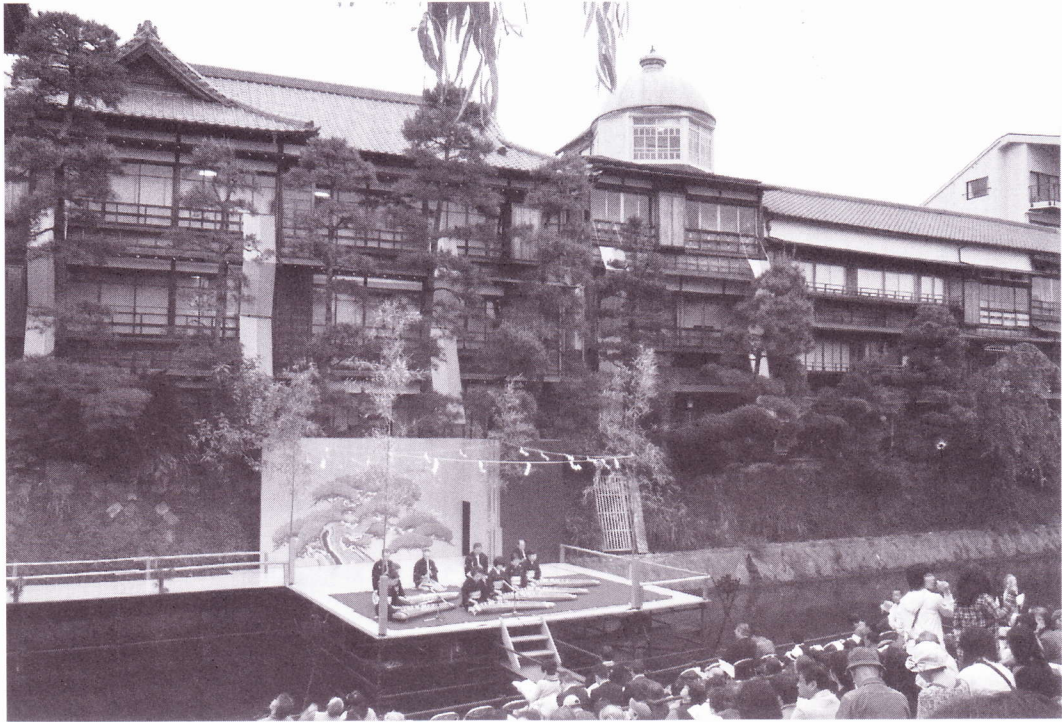
日時 七月二十三日(日) 十時半～十七時

場所 豊島区 栗島神社

糸方 設楽千聡代先生ご社中

一	郭公	坂口 隆廣	箏	吉野千紫代 藤平彩加
二	桜狩	古越 笙童	箏	樋口千清代 佐々木千香能
三	白の声	正木 杜童	三絃	樋口千清代 設楽千穂代 藤平彩加
四	松竹梅	柘植 亀寿	箏	佐々木千香能 吉野千紫代
五	鐘が岬	栗原 有童	三絃	樋口千清代 佐々木千香能 吉野千紫代
六	秋の曲	川津 征童	箏替手	佐々木千香能 吉野千紫代
七	住吉	飯島 洋童	箏	樋口千清代 設楽千穂代
八	須磨の嵐	五月女調童	箏	佐々木千香能 藤平彩加
九	松風	岩崎 圭童	三絃	樋口千清代 設楽千穂代 吉野千紫代
十	四季の段	小森 周童	箏	設楽千聡代 佐々木千香能 吉野千紫代





伊東祐親祭り 松川「薪能」舞台

## 壺竹会

平成二十九年七月十七日(月)に横須賀の汐入で、尺八は壺竹会員と糸方五社中で合奏勉強会を行う。

平成二十九年九月十二・十三日に、関口三童氏・鈴木隆童氏、宇都宮地区で企画による合宿勉強会と寺巡りによる本曲を献笛し、住職による講和を聴き、有意義な勉強をした。

平成二十九年十一月十一・十二日に横浜市の施設「森の家」内にある、森のホールで、糸方四社中と合奏勉強会・忘年会を行う。

二日目は「童門会全国演奏大会」に演奏する曲中心に、糸方と繰り返し練習して目的を達成しました。

### 壺竹会(湘南三曲会)行事

○七月十七日(月)休日

参加者 四十名

尺八 二十名

糸方 二十名

曲目数 二十曲

○十一月十一日(土)・十二日(日)

参加者 三十九名

尺八 二十名

糸方 十九名

曲目数 二十曲

宗形 幸童 記





- |    |      |       |    |        |
|----|------|-------|----|--------|
| 十一 | 竹生島  | 佐々木明童 | 三絃 | 樋口千清代  |
|    |      |       | 箏  | 吉野千紫代  |
|    |      |       | 三絃 | 設楽千聡代  |
| 十二 | 七福神  | 高橋 澄童 | 箏  | 佐々木千香能 |
|    |      |       | 三絃 | 設楽千穂代  |
|    |      |       | 箏  | 吉野千紫代  |
|    |      |       | 三絃 | 樋口千清代  |
| 十三 | 近江八景 | 亀井 鳳童 | 箏  | 設楽千穂代  |
|    |      |       | 三絃 | 藤平彩加   |
|    |      |       | 箏  | 設楽千聡代  |
| 十四 | 郭 公  | 伊藤 遊童 | 箏  | 吉野千紫代  |
|    |      |       | 三絃 | 藤平彩加   |
|    |      |       | 箏  | 樋口千清代  |
| 十五 | 須磨の嵐 | 荒屋 夢童 | 箏  | 佐々木千香能 |
|    |      |       | 三絃 | 藤平彩加   |
|    |      |       | 箏  | 樋口千清代  |
| 十六 | 小 督  | 星野 忠童 | 箏  | 樋口千清代  |
|    |      |       | 三絃 | 吉野千紫代  |
|    |      |       | 箏  | 設楽千聡代  |

会場は、前年に引き続き豊島区の粟島神社内の程好く冷房の効く和室において、浴衣ざらいとして行いました。

参加者は、十一月の童門会演奏会の下合わせと位置付けて臨み、各自持てる技量を十分発揮し、熱演であったと思われま

川津 征童 記

### 参加者全員



山田流合奏勉強会 平成29年7月23日（日） 粟島神社



## 伊豆童門竹豊会

平成二十九年度における主な私どもの活動状況についてご報告致します。

私ども伊豆支部は「伊東市三曲連盟」に所属し、伊豆地域において、日本古来の伝統音楽の研鑽と、地域文化の発展に寄与すべく、演奏活動を中心に、文化向上へのボランティア活動等を展開しています。

私どもが住む「伊東温泉」は、風光明媚な「国際観光温泉文化都市」として、多くの観光客に親しまれております。特に最近では、海外から訪れる旅行者も多く、街の温泉情緒や文化に触れ、楽しまれておられる方々がみられます。

そのために、市内では数多くの伝統行事や、観光イベントが、年間を通じて開催されております。そこで、「伊東市三曲連盟」は、この行事、イベントに賛助出演して、これ等の催しを盛り立てる役割の一助になっております。

今年（例年そうですが・・・）私どもが参加した主なものは

### 一、つつじ祭りに参加（五月初旬）

伊東市南部にある、小室山山麓の真赤に染まるツツジ公園での演奏

### 二、伊東祐親祭り、松川「薪能」舞台に参加（五月中旬）

鎌倉時代、伊東市の開祖「伊東祐親」公をはじめとする、先人たちを忍ぶお祭りで、毎年賑やかさを増し、今年で四十回を数えました。

伊東市街地を悠々と流れる「松川」に、全国でも珍しい水上特設舞台を設置し、「薪能」の上演をはじめ、多彩なイベントが繰り広げられます。特に、「薪能」では、国内の第一人者による狂言や能が上演され、水上での幻想的な情景を楽しめます。

### 三、伊東按針祭りに参加（八月上旬）

伊東温泉挙げての、夏の最大イベントで、徳川家康の命で、日本で最初の「洋式帆船」を建造した「三浦按針」を顕彰したお祭りで、時代仮装行列、灯籠流し、打ち上げ花火等行われ、沢山の市民で賑わいます。

### 四、伊東市芸能・芸術祭に参加（十月中旬）

この芸能・芸術祭は、伊東市の文化、芸能に携わる市民団体の最大の演奏、発表の舞台で、「伊東市三曲連盟」も創立以来、毎年参加している演奏会です。

私どもは、本曲「三谷菅垣」を上奏し、外曲はすべて琴社中の共演で「松竹梅」他七曲を、各々担当を決めて参加しました。

### 五、その他、各施設でのボランティアでの活動を致しました。

最後に「伊東市三曲連盟」も平成三十年十月に、創立四十五周年を迎えます。

この記念事業を盛大に開催すべく、琴社中と協力して只今、鋭意計画中です。

山本 英童 記  
以上

## 荒海應童氏を偲んで

宗形 幸童

荒海應童氏の人柄について

荒海應童氏は防衛大学二期生で私の大先輩です。(私の三期先輩に当たります) 荒海氏は学生当時、彼等の学生指導官として在籍された、柴田繁教官の指導を受けて以来幹部自衛官として職責にまい進する傍ら、尺八道について、柴田駿童師より三十年間にわたり厳しい教示を受け、柴田駿童先生が創られた尺八の会「駿竹会」を引き継ぎ、「駿竹会」会長になるとともに、牛久市三曲会を立ち上げ、地区の邦楽の繁栄に努力されました。

私生活については、奥様の写真家としての活動、特に、牛久地区に聳え立つ「牛久大仏」写真集作成について協力され、素晴らしいものが出来たと聞いております。

また防衛大学の生徒としてお世話になった柴田駿童先生を尊敬し、公私ともにお付き合いされ、恩師八十八才で亡くなられるまで、いや、先生がご病氣入院時には家族以上にお見舞いされ、人生最後の告別式を準備し、尺八愛好家による「三谷菅垣」の献笛までされました。



## 荒海應童氏の尺八に対する情熱について

- 一 尺八練習の環境創り・自宅の窓を二重サッシ
- 二 本人自ら牛久地区三曲会を立ち上げる
- 三 体調が悪いときでも演奏会に参加する気力は大で例えば、二十九年度の「日本三曲名流大会」及び「萩岡会」等の参加は入退院の繰返ししてる時に、参加を申し出られる。

荒海應童先輩は、我々後輩にいろいろ教え・引き継がれました。例、演奏会曲目メクリ等は大切に扱います。平成二十九年三月三十一日療養中にご逝去されました。

合掌







平成三十年三月三十一日

発行所 琴古流宗家童門会本部

〒三五一〇一一五 和光市新倉二二六―二七

電話・ファックス ○四八―四二四―八八六四

ホームページ <http://h.kuri-34.com/k-syakuhati/doumon.html>

<http://soukedoumon.sakur.ne.jp/>